



新潟市歴史博物館
博物館ニュース

帆樫成林

Vol.59

帆樫成林

—はんしゅうせいりん—

新潟市歴史博物館 博物館ニュース vol.59

「帆樫成林」とは？

帆柱が林のように多く立つ様子を表した語。人が多く出入りする活気ある「みなと」をイメージしました。

高校生ボランティア企画「たいけんのひろばなまつり」とんぼ玉づくり、釣り堀体験、むかしのあそび、植物スタンプといった体験を実施しました。

CONTENTS

特集1	声をあつめて	
	—みなとびあアンケート奮闘記—	P.2~3
特集2	第20回むかしのくらし展	
	どうぐのどうぶつえん!	P.4
歴史さんぽ	ラジオ放送黎明期をたどる ～旭町・白山公園	P.5
おすすめの一冊	古文書のことば百話	P.5
特集3	新潟市の地図を見比べる	P.6
館長日記	新潟の地域圏と気候	P.7
収蔵資料紹介	松平忠輝家臣連署定書	P.7



帆樫成林「はんしゅうせいりん」第59号 発行日 令和5年9月13日
編集・発行／新潟市歴史博物館 〒951-8013 新潟市中央区柳島町2-10
印刷／株式会社博進堂

【たいけんのひろばプログラム】

楽しみながら、遊びながら、昔のことを学びます。

日時	タイトル	内容	申込み・対象・参加費
9月30日(土) 10月7日(土) 10:00~12:00	古町子ども研究所 「白山公園すごろくをつくろう」	白山公園がひらかれてから150年。新潟の人々のいこいの場であった痕跡をさがしたり、昔の写真と今を見比べたりして、自分だけの白山公園すごろくをつくろう。 ※会場：白山公園	9/30と10/7の全2回のプログラム ・要申し込み ・両日参加できる小学生10人(応募多数の場合は抽選) ・9/20までにメールで申し込み・無料
10月14日(土) 13:00~16:00	もめん部	博物館にある資料を使いながら、布生産にまつわる手仕事を体験します。	大人向けの活動・部員が対象

お申し込みは、電子メール・往復はがきで当館まで。申し込み締切日は、当館までお問い合わせください。

次回企画展

第20回むかしのくらし展「どうぐのどうぶつえん！」

博物館が動物園に!?くらしの中で使われる道具には、動物の名前や姿かたちからヒントを得たものがいっぱい!身近な道具やできごとから、動物と私たちのくらしとの関わりについて考えてみましょう。

会期 2023年9月16日(土)~12月3日(日)
9月▶9:30~18:00、10月・11月・12月▶9:30~17:00
休館日 毎週月曜日(9/18・10/9は開館)、9/19(火)・9/26(火)・10/10(火)・11/7(火)・11/24(金)
観覧料 無料
主催 新潟市歴史博物館
後援 長岡市立科学博物館・新潟市水族館マリニピア日本海・新潟市立中央図書館ほんぽーと

- どうぐのどうぶつえん! アニマルトーク**
日時: 9月18日(月祝) ①午前11時~11時30分 ②午後2時~2時30分
講師: 鳥居憲親さん(長岡市立科学博物館動物研究室)
会場: 本館1階企画展示室
参加費: 無料
申し込み: 不要、定員各回15人
- どうぶつ菓子型でキーホルダーづくり**
日時: ①9月23日(土祝) ②9月24日(日) 午後2時~3時
会場: 本館1階たいけんのひろば
参加費: 300円
申し込み: 必要、定員各回6人、先着順
- 展示解説会(全9回)**
日時: 9月17日(日)・10月1日(日)・15日(日)・22日(日)・11月3日(金祝)・5日(日)・12日(日)・19日(日)・12月3日(日) 各回午後2時~2時30分
会場: 本館1階企画展示室 参加費: 無料 申し込み: 不要、定員各回15人
- 蚕のまゆでマスコットづくり**
日時: ①10月28日(土) ②10月29日(日) 午後2時~3時
会場: 本館1階企画展示室
参加費: 無料
申し込み: 必要、定員各回6人、先着順
- ギャラリートーク 「サメと鮫皮~鮫皮をさわってみよう~」**
日時: 11月23日(木祝) 午後2時~2時30分
講師: 棚橋悠里さん(新潟市水族館マリニピア日本海飼育員)
会場: 本館1階企画展示室
参加費: 無料
申し込み: 不要、定員各回15人、先着順
- わらでどうぶつのかざりづくり**
日時: ①11月25日(土) ②11月26日(日) 午後2時~3時30分
会場: 本館1階企画展示室
参加費: 無料
申し込み: 必要、定員6人、先着順

みなとびあ便り

みなとびあは信濃川の最下流部の左岸に位置しており、対岸には佐渡汽船ターミナルがあります。日に4回、2隻のカーフェリーが交代でそこから佐渡に向けて出港して行きます。130メートル余りある船体を180度ゆっくり旋回し日本海に向かう姿は、迫力があり感動さえ覚えます。カーフェリーの操舵室に向かって大きく手を振ると、船長さんが手を振り返してくれる…かもしれません。「いつてらっしゃい!」と心の中で叫びながら見送ります。
博物館脇、信濃川左岸緑地「みなと・さがん」で、ぜひ一度この情景をご体感いただきたいです。みなとびあにお越しの際には、カーフェリーの出港時刻をチェックしてみてください。(企画普及課 高桑)



みなとびあ歴史発見プロジェクトは、こどもからおとなまで幅広く、みなとまち新潟の歴史に親しみ、自ら歴史を発見する喜びを知ってもらい、新潟の街をみんなで盛り上げていこう!という事業です。

「みなとびあ歴史発見プロジェクト」は、下記の地域の企業・団体のみなさんからご協賛をいただいています。

NST 日和山五合目 **北陸ガス** **本間組** **田中屋本店** **新潟 びんごう**

Humming **WIND** **羽垂ビル** **念吉** **Travel Masters**

(順不同)

次回企画展

「収蔵品・新収蔵品展」

資料の収集・保存は博物館の重要な事業です。収蔵品展では、テーマを設けて館の収蔵品を紹介します。新収蔵品展では、今年度新たに収集した資料を紹介します。

会期 2023年12月16日(土)~2024年1月28日(日)
休館日 毎週月曜日(1月8日(月)は開館)、12月28日(木)~2024年1月3日(水)、1月9日(火)

博物館講座

当館学芸員が調査・研究をすすめているテーマについて、毎月第4日曜日にお話します。

【時間】 10時~11時30分 **【会場】** 本館2階セミナー室
【申し込み】 要事前申し込み(定員60名程度) **【資料代】** 無料

- ◆9月の講座: 9月24日(日) 松平忠輝とその時代 **※申し込み開始: 9月6日** 講師: 田嶋悠佑
- ◆10月の講座: 10月22日(日) 国民体育大会と新潟市 **※申し込み開始: 10月4日** 講師: 藍野かおり
- ◆11月の講座: 11月26日(日) 新潟町の人々に愛された絵師 石川侃斎 **※申し込み開始: 11月8日** 講師: 大森慎子
- ◆12月の講座: 12月24日(日) 型染めと型紙 **※申し込み開始: 12月6日** 講師: 若崎敬朗

お知らせ

■2024年12月28日(木)~2024年1月3日(水)まで年末年始のため休館となります。

旧小澤家住宅企画展

- 「生誕140年 安宅安五郎」展 会期: 9月9日(土)~9月24日(日)
- 新潟郷土会展「絵葉書と年賀状~時代と共に生きる切手の世界~」展 会期: 9月30日(土)~10月9日(月)
- 「新潟仏壇工芸」展 会期: 10月14日(土)~11月5日(日)
- 「伊勢型紙の世界」展 会期: 11月18日(土)~1月21日(日)

開館時間: 午前9時30分~午後5時 休館日: 原則月曜日、祝日の翌日、年末年始
入館料: 一般200円 小中学生100円(土・日・祝日は無料) TEL: 025-222-0300
所在: 新潟市中央区上大川前通12番町2733 (みなとびあから約900m、徒歩12分)

編集後記

今回は「声をあつめて」と題し、みなとびあで実施しているアンケートの取り組みについて特集しました。アンケートの回収率を上げるための取り組みとして、例えば企画展のアンケート用紙の色を白から赤に変えたことで回収率が上がった経験もあります。ほんの些細なことですが、アンケートの存在を強調することに繋がったようです。今後も試行錯誤しながら、多くの方にアンケートを記入してもらえよう環境づくりに取り組んでいきたいです。(鈴木)

お問い合わせ・申込みは博物館まで

新潟市歴史博物館 みなとびあ
住所: 〒951-8013 新潟市中央区柳島町2-10
Tel: 025-225-6111 Fax: 025-225-6130
E-mail: museum@nchm.jp URL: https://www.nchm.jp
【休館日】 毎週月曜日・祝日の翌日・年末年始(12/28~1/3)
【開館時間】 (4-9月) 9:30~18:00 / (10-3月) 9:30~17:00

2023.6月現在

みなさんはアンケートに答えていますか？ 公共施設や店舗などを利用する

当館でもアンケートを実施していますが、回収率は低調です。常設展示室の

アンケートは、単に観覧者の感想を尋ねるものではなく、運営において非常



常設展示出口のアンケートコーナー

報告してくれたりします。また、当館のボランティアスタッフからの報告や意見も貴重な財産です。

アンケートでは、さらに幅広いご意見、職員に声をかけるまでもない違和感や要望を、気軽に書き留めていただく

当館で通常年五回開催している企画展(収蔵・新収蔵品展含む)においては、



「ぼくわたしの地域の年中行事」

か、今後どのような事業やサービスを行っていくべきか。好意的なご感想は嬉しく励みになるのはもちろん、館の評価基準において重要ですよ。

一方で、改善点のご指摘も大変ありがたいものです。大規模な改修が必要なのは、現時点で予算的に難しいもの

また、企画展のアンケートで「ケース奥の解説文は文字が小さくて読めない」というご指摘をいただいた際には、メンテナンス係が表面を掃除してありますが、経年のホコリで内側がうっすらと曇ってしまっています。

「ほかの人の声がうるさかった」という声もしばしばいただくことがあります。実は当館では、展示室内での会話を禁じていません。展示を見ながら話し合うこ

企画展用のアンケートを実施しているほか、観覧者の声をあつめる仕掛けが以前からなされてきました。たとえば、開館当初から毎年開催している「むかし

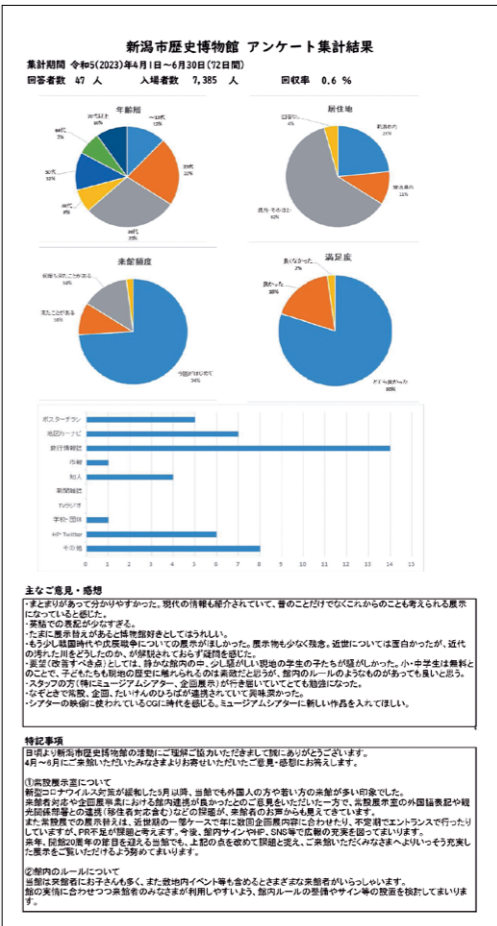
二〇二一年度開催の第一八回むかしのくらし展「新潟のくらしと年中行事」では、展示の最後に、「ぼくわたしの地域の年中行事」と題して、行事に関わる思い出を自由に書いていただく形でした。記述内容はデータ化して記録するとともに、随時そのコーナーに貼り出していきます。年中行事がテーマということで、江戸末期の絵巻物「あまのてぶり」(当館蔵)に描かれた盆踊りに興じる人々を挿絵にし、かつての新潟の人々がにぎやかに語り合っているような「展示」となりました。

その内容は、たとえば、正月膳のサンブル展示で鮭の切り身をみて「(自分の地域では)鮭は新巻鮭でもち切りです」と教えてくださったり、まちなかの祭りで「天狗のうちわで頭をなでられるとよい」とのことや、なでてもらったりした」といった実体験を書いてくださったりというもので、貴重な歴史情報です。観覧者が企画展を見ることで自分のくらしを振り返り、発信する。リアルな体験談が加わって企画展がより充実したものとなり、観覧者と共に「展示」がつくられる、参加型展示の一つの在り方といえます。

今年度四月から五月に開催した企画展「長井雲坪 沼垂の画家うんべいさんの里帰り」のアンケートでは、こうした「参加型」スタイルが功を奏しました。所蔵者の方のご希望もあつて展示品の人気投票を行うこととなり、投票用紙にアンケートを組み合わせた形にしました。

と、自分の体験などを思い出してそれを共有することが、「市民の歴史に対する理解を深めるとともに、歴史を媒介とした市民交流を行うこと」を設置目的に掲げる当館の在り方に適していると考

アンケートは、ニーズの掘り起こしに



アンケート結果の公開 (今年度4~6月分)

うんべい作品お気に入り投票
お気に入りの作品番号を書いて投票してください。
結果はTwitterで発表！
下記アンケートにご協力ください。
1. みなとぴろへ来たのは何回、何人で来館しています。
2. どなたと？(一人で 家族・親戚と 友人と 学校・団体 その他)
3. あなたは？ 歳 (自認する) 性別
4. お住まいは？ 市内() 区・県内() 市町村()
国内() 都道府県() 海外()
5. 来館の交通手段は？ [徒歩 自転車 路線バス 観光循環バス 貸切観光バス 水上バス 自家用車 タクシー その他]
6. 来館の目的は？ [鑑賞 講座 体験の広場 イベント 観光旅行 散歩 家族で遊びに 歴史的建造物(税関・旧第四)利用 各地の博物館探訪 下町めぐり 歴史学習 調査研究 デート 来客を案内 その他]
7. 雲坪展観覧のきっかけは？ [ポスター・チラシ ホームページ 市報にいた新聞 雑誌 テレビ ラジオ 知人から 学校・団体行事 来館して 地図・カーナビ 旅行情報誌 観光パンフレット まいぶんナビ その他]
8. 今回の観覧会は [非常に良かった 良かった やや不満 非常に不満]
理由()
ご協力ありがとうございました。

「長井雲坪」展の投票兼アンケート

また、手間に感じさせない工夫として、設問数をしぼって通常の半分

展示を単に見るだけでなく、自分が参加する楽しさと連動すること。参加しようと思えるきっかけづくり。そうした仕掛けが、より多くの声をあつめるのに有効であることがよくわかります。

このような経験を経て、現在アンケートの具体的な改善に取り組んでいます。まずは、アンケートの手間を少しでも省くために設問の整理縮小を行いました。運営へ活かしていくことのできる有用な情報は何なのか、見直すことにも

つながりました。また、アンケートの設置場所についても検討しています。ゆとり休憩でき、ついでにアンケートに協力していただけるような場所づくりが必要だと考えています。それは、当館の無料スペースの活用・PRとも連動しています。アンケートに答えたくないような「参加型」の仕掛けも思案中です。よりよい博物館運営のため、来場者の声をあつめ、ご指摘・ご意見に対応していく。アンケートをめぐるみなとぴろ職員たちの奮闘をご紹介します。アンケート結果は、館内に掲示するとともに、ホームページ上でも公開しています。今後とも試行錯誤する様子をぜひ見守っていただきたいと思います。そしてお時間がありましたら、ぜひともアンケートにご協力ください！

(なかむら さとな 学芸員)

どうぶつのどうぶつえん!

会期 二〇二三年九月一六日〜十二月三日

山田 祐紀

散歩する犬、道ばたで日向ぼっこをする猫、電線にとまるカラス：私たちは日常の中の実に多くの場面で、動物たちと遭遇しています。いつも私たち人間の隣にいる動物たちは、日々の衣食などの実用的な場面に限らず、信仰なども含めて、私たちの生活を豊かにするために広く利用されていることにお気づきでしょうか。

くらしの中で、人と動物はいつだってな関係を築いてきたのでしょうか。

例えばくらしの中で使われてきた道具には、動物に関係するものも多くあります。財布としてのガマ口、荷物を背負うための背中あてのバンドリ、ケーブのような袖まわりのとんびコート、こうもり傘など、動物の名前や姿かたちからヒントを得た道具。衣類の仕立用定規の鯨尺、絹製品、皮革製品、螺鈿細工の装飾品など、動物を素材として用いた道具。鞍や鏡、鋤や馬鋏などの農耕具、狩猟具や漁撈具など動物に直接用いる道具…。

このように、くらしの道具の中にも動物たちのさまざまな姿が見えることができます。そしてそれは生活に直接的に役立つ場面や道具に限らず、めでたいしるしや願いが込められてきた風習や

信仰の場面、そしてそこで用いられる道具にも広がりを見せます。

例えば五月五日の端午の節句に鯉のぼりが飾られるのはなぜでしょう。妊婦が戌の日に腹帯を巻くのは？ 絵馬ってなんで馬の絵が描いてあるの？ 獅子頭ってなに？ 鶴と亀ってセットで使われるけどどうして？…特定の行事や場面に、なぜその動物が登場するのか。誰もがかつて不思議に思ったことがあるのではないのでしょうか。それはどんな動物でもよかった、というわけではなく、一つひとつの風習に意味があるように、用いられる動物にも意味があるのです。

そしてこれらの道具や風習は、動物と人間の関係性を踏まえた上で、用いられたい地域に根付いたりしています。それは時に、食料として、素材として、仕事の仲間として、恐れ敬う対象として、愛でる対象として、さまざまに、また柔軟に変化しています。

今回の展示では、哺乳類・爬虫類・魚類・両生類・昆虫：時には竜や獅子、妖怪など空想上の生き物など、生物学上の分類を問わず、私たちのくらしのさまざまな場面が登場する人間以外の生き物を「どうぶつ」として対象にしました。湿潤な気候に恵まれ、山や川、森が豊

かに広がる日本では、人と野生動物が比較的近くで暮らす環境にあります。

近年では、自然環境の変動により野生動物の食糧となる木の実などが不作となることで、人間の生活領域に入り込んだ野生動物が駆除されるなど、人と動物の距離が適正に保たれていないことが表面化してきました。山間地域の過疎化をはじめとする人間の生活圏の変化によって、今後いつそう、住み分けるエリアや境界線は変化していくことが予想されます。

みなとびあではこの秋、動物と私たちのくらしのかかわりを紹介する企画展を開催します。子どもにも分かりやすく、また大人のみなさんにも興味を持っていただける内容となっています。

また、県内の博物館・水族館・図書館と協力し、動物の専門家によるギャラリートークなどのイベント実施や、動物に関わる図書の特設コーナーで紹介しませす。歴史博物館とは異なる切り口で、来館者のみなさんとともに、動物にアプローチしてみる試みです。

館内ミュージアムショップでは、新潟でハンドメイドの作品を扱うセレクトショップと手仕事に取り組む企業にご協力いただき、動物モチーフのすてきな

グッズを展開します。

常設展示でも、縄文時代に使われた石錘(魚網に使用する石製の錘)や黒曜石製の鏃、古代の鮭加工施設としての的場遺跡、水鳥や魚など潟周辺の動物たちが、新潟のくらしと動物のかかわりを示唆しています。ご来館した際にはぜひ新たな視点でご観覧ください。

企画展をきっかけに、身近な動物と私たちのくらし、そしてその関係性のいまとむかしについて、他人ごとではなく自分ごととして、ご家族やご友人とあれこれ話をし、考える機会にしたいだければ幸いです。

(やまだ ゆうき 学芸員)



した記念の一環として、「公衆の聴取便宜の増進を計ると共に事業周知宣伝の一助」とするため、日本放送協会が計画したのがラジオ塔の建設でした。多数の利用に供することができるように大都市の公園などへの設置が計画され、昭和7年から8年にかけて、設置済みのものと合わせて全国41か所にラジオ塔が建てられました。

そのうちの1つが白山公園のラジオ塔です。白山公園のラジオ塔は、新潟放送局の開局1周年記念と合わせ、昭和7年11月11日に新潟放送局から新潟市に贈呈されました。蓮池の中にそびえるラジオ塔は白山公園の新名物として絵葉書の恰好の被写体となりました。白山公園に集う多くの人がラジオ塔からの放送に耳を傾けました。

新潟にラジオの音が響いてから90年余り、放送局は2度の移転を経て、川岸町の現在地に位置しています。ラジオ塔はその後も80年にわたり、新潟の人々の耳を楽しませました。平成26(2014)年、老朽化により設備の一部が撤去され放送を中断していましたが、平成28年に修復し、現在も朝、昼、夕の1日3回、ラジオ放送を流しています。現在も放送を流しているラジオ塔は全国的に珍しいものです。

近年、日本各地のラジオ塔が地域の人々によって見直されています。住民による復活プロジェクトが実施されたものもあると聞きます。そんな中、白山公園のラジオ塔はラジオが新しいメディアであった当時と変わらない姿を今に伝えています。

藍野 かおり(あいの かおり 学芸員)



白山公園の蓮池に浮かぶラジオ塔

おすすめの1冊

古文書のくらしの辞書

一言葉から新潟の歴史をたぐる

先人が学んで得た知見を活かし、古文書と向き合い、そこで新たな知識を得るといふ楽しさを伝えたい。本書は、こうした著者の思いを、新潟の古文書を紐解いて、使われている言葉を丁寧に解釈した、百話の随筆によって形にしたものです。

本書において著者は、疑問を覚えた古文書の言葉を、諸々の文献や古文書を突き合わせながら解釈していきます。さらに、その解釈に至った過程を、平易な表現を用いながら、つぶさに示しています。このように本書は、著者が古文書といかに向き合ったのがその軌跡が追える点に特徴があります。

本書で取り上げられている古文書は、地主の日記や町人の書留、代官所や奉行の記録など多彩です。そして、著者がそこからすくいと上げた百の言葉は、生活者のまなざしを感じられるものが多い、という印象を受けました。これは、著者が「あとがき」のなかで、まさに述べている「私は、日常茶飯事にも歴史は買っているし、町や村の人々の日々の生き方が歴史を動かしているときえている」という考えに拠るところなのでしょう。

なお、本書には、一話ごとに古文書の画像が掲載されていますが、その脇には、古文書が読めない方でも読み下せるよう、一つひとつにルビが振られた書き下し文が添えられていますので安心です。また、本書は言葉の意味を深く理解しながら、古文書の背景に横たわる歴史を学べるため、古文書を学習中の方にもお勧めです。

(安宅 俊介 学芸員)



伊東 祐之 著
2023年
新潟市歴史博物館
歴史発見プロジェクト 発行

歴史さんぽ

ラジオ放送黎明期をたどる
～旭町・白山公園

世界で初めてラジオ放送が開始されたのは、1920年のアメリカのことでした。それから遅れること5年、大正14(1925)年3月、日本でも東京にて試験放送が、そして6月には本放送が始まりました。その後、大阪、名古屋でも放送局が開局しました。

東京、大阪、名古屋の放送局が合併し、大正15年に日本放送協会が発足してからは、全国各地から放送局設置を求める声が相次ぎました。

これに応える全国放送網5か年計画によって、昭和3(1928)年には広島や仙台などの主要都市に放送局が設置されました。さらに第二次拡張計画により岡山、静岡などとともに、昭和5年に新潟県にも放送局が設置されることになり、新潟市と長岡市とで誘致合戦を繰り返した結果、新潟市に決まりました。建設地は蒲原平野一帯に電波を届ける役割からも、高台である旭町の南山水道配水所の敷地の一部が選ばれました。

新潟に放送局が設置される以前、新潟のラジオファンは受信機をセットし、東京や仙台の電波を苦心して捉えるものの、雑音しか聞こえてこないこともあったようです。昭和6年10月22日に初めての試験放送が行われ、11月11日から本放送がはじまりました。ラジオから聞こえる明瞭な音声に多くの新潟市民が歓喜に沸きました。

しかしながら、ラジオ受信機はまだ高価の花でした。普及が順調に進まない中、多くの人にラジオ放送を聴いてもらい、その有用性を知らせる目的で、昭和5年、大阪の天王寺公園に街頭ラジオ設備が設置されました。これが日本で最初のラジオ塔です。

その後、日本全国のラジオ聴取加入数100万人を突破

新潟市の地図を見比べる

令和五年度収蔵品・新収蔵品展 会期 二〇二三年十二月十六日〜二〇二四年一月二十八日

森 行人

地図は魅力的な資料です。企画展の地図の展示コーナー前にはじっくりと見る観覧者の姿が絶えず、関心の高さがうかがわれます。

その魅力の一つは、私たちが今見ている街並みや土地の様子が、過去にどのような姿をしていたのかを見せてくれる点にあります。

新潟市は明治二十二(一八八九)年に関屋村と合併、市制を施行します。さらに大正三(一九一四)年に沼垂町と合併、以降多くの合併を経て現在の市域を形成してきました。この新潟市域の移り変わりを可視化するのが新潟市全図などの都市地図です。当館所蔵のもので、新潟市や行政機関が発行したもののほか、刊行物の付録もあります。昭和十八(一九四三)年の大形・石山・鳥屋野村との合併以前の新潟市の地図は、河口から今の関屋分水まであたりの信濃川兩岸を範囲とします。年代順に並べると、合併以降、港湾地区の整備が進み、宅地や工場地帯が広がり、公共施設

や庁舎・社屋の建設などが進められていく様子がわかります。

特に大きく変貌を遂げる地区の一つが流作場、現在の万代地区です。写真は「大正三年四月十日発行の『新潟沼垂合併 新潟市全図』(編輯権発行者：玉木佐吉、印刷所：進光堂石版印刷所、発売元：北光社書店・萬松堂書店・澤井商店・村上屋店・佐藤絵葉書店・考古堂書店・後藤書店)の萬代橋付近を部分拡大したものです。

現在と比べて大きく違うのが萬代橋です。この地図の萬代橋は木橋の二代目が掲載されています。信濃川の川幅も現在と比べて広く描かれています。ところが、昭和初期以降の地図では流作場付近の川幅がずっと狭く描かれます。たとえば、昭和五(一九三〇)年六月五日発行の「最新 都市計画街路及地番入 新潟市交通線路図」(新潟市役所土木課編纂・東京日日新聞第一九三二四号附録)には萬代橋上流の右岸側を埋め立てた状態で描かれています。この埋め立ては大正十一(一九二二)

年の大津津分水通水により信濃川の水量が減少したため実現しました。現在の流作場五差路付近から西側が埋め立てられ、この図に埋立地は街路以外の記載はわずかですが、昭和二十四

(一九四九)年四月十日発行「新潟市街図」(富士波出版社)では、鉄道局や新潟交通の施設などが記載されます。のち、昭和四〇年代後半には万代シテイが開業し、商業地帯として大きく発展します。そして現在では新潟市が進める「にいがた2km」の中心に位置するエリアとなつていきます。通学・通勤あるいは休日にも多くの市民が集まる新潟市のこの空間が、かつて信濃川の中にあり、この一〇〇年で起こった大きな変化が地図からうかがえます。街の変遷を可視化する地図は、こうした劇的な変貌を遂げているエリアでより歴史の面白さを伝えてくれます。

なお、今年令和五(二〇二三)年は白山公園一五〇周年を迎え、さまざまな記念イベントが行われています。この白山公園の周辺も、都市地図が示す

一〇〇年で大きく変化してきた地区です。昭和初期に埋め立てが進められ、白山公園に隣接して公会堂や市営総合グラウンドが建設され、様々な文化事業、スポーツ大会が開かれてきました。現在では新潟市民芸術文化会館や新潟県民会館などの文化施設、新潟市陸上競技場や新潟市体育館などの体育施設が集まる地区となっています。



写真：新潟沼垂合併 新潟市全図(部分・1914年)

(もり ゆきひと 学芸員)

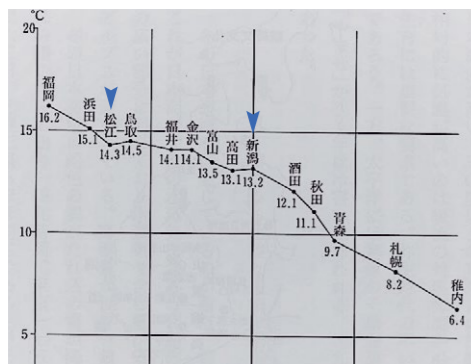
新潟の地域圏と気候

越後と佐渡からなる新潟県は古代の北陸道に属しており、北陸といえます。新潟県はガスは北陸ガスですが、電気は東北電力です。遺跡から出土する土器の形や文様などの特徴も、北陸系のほか東北系、信州系などがみられます。弥生時代後期(二〇〇年前)の新潟市域では、西からの北陸系と北からの東北系がともにみられ、異なった文化圏が重複する境界に位置することがわかります。二〇年ほど前、日本海側の地域性と気候の関係が気になって調べてみました。手元にあった一九九三年版『理科年表』をもとに、約二〇〇キロに及ぶ、九州の福岡から北海道の稚内まで、一四都市の年間気温を、距離も考慮してグラフ化してみました(下図)。おどろきました。日本海側の気温は、新潟市を境に明瞭に変化しているのです。

館長日記

新潟市歴史博物館 館長 坂井秀弥

新潟の年間気温は一三二度。七〇〇キロ離れた松江までは一度前後高いたけですが、新潟から北へは一気に低下し、四〇〇キロほどの青森は三度から四度低いのです。この気温の変化は土器の地域



色に見事に対応します。気温は幅作に大きく影響し、歴史にも深く関係します。新潟市周辺は古墳時代の前方後円墳の北限であり、ヤマト政権の勢力圏北辺に位置します。それを引き継いで六四七年、阿賀野川北岸に淳足柵(後の沼垂城)が設置されます。

近年、地球温暖化が進んでいま

収蔵資料紹介

松平忠輝家臣連署定書

徳川家康六男松平忠輝の重臣が、慶長十六(一六一一)年に、新潟町へ出した定書です。交通制度について定めたもので、「新潟町会所文書」の一通です。今回は、差出人に注目して紹介したいと思います。

差出人は右から松平筑後守信直、山田隼人正勝重、花井遠江守吉成、松平大隅守重勝、大久保石見守長安です。印をよく見てみると、重勝、長安の印文は残念ながら解読できませんが、重勝、長安以外の各人は、自分の名前を彫っています。

松平信直は忠輝の家(長沢松平家)の縁者で、山田勝重と花井吉成は忠輝の母の血縁者、松平重勝と大久保長安は徳川家康から藩政補助のため派遣された人物でした。

忠輝は花井吉成に松代城(長野市)、松平重勝に三条城(三条市)といったように重臣に城と領地の管理を任せていました。

しかし、よく考えると、この法度を出すためには、各地の城にいる重臣たちが印を順番に押す必要があるはずですが、重臣たちは、普段は各人の持ち城を離れて、忠輝の下に集まり定書

などを作成しなければならなかったのではないかと考えられます。また、署名の順番も一応決まっていたようです。現存している他の法度を見ると、松平信直から松平重勝までの四人は、順番がたびたび入れ替わっています。大久保長安だけは常に最後に署名しています。大久保長安は特別扱いだっただけです。

この文書がどのようにして出されたのか、人間関係はどうだったか、興味が湧きます。

(田嶋 悠佑 学芸員)

